

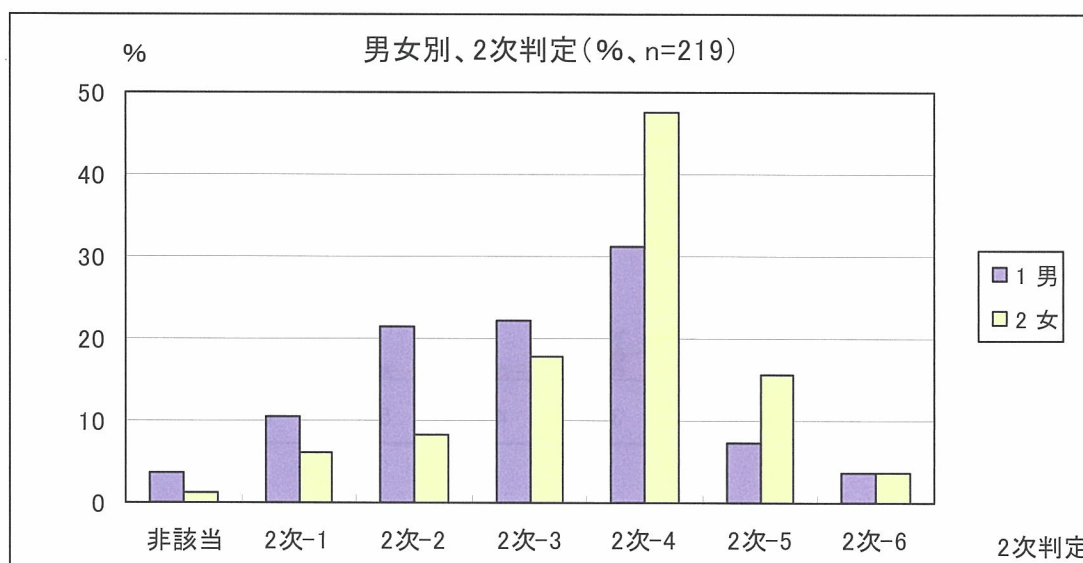
## (2) 2次判定(障害程度区分)について

### ① 2次判定(障害程度区分)の頻度

2次判定(障害程度区分)の男女別頻度を見ると、男性は判定3～4で5割を超え、女性は判定4～3で6割を超えている(図表3-15)。なお、広島県全県の調査では最頻値の判定2が30.0%を占めていた(図表1-6)。ちなみに4病院の1次判定結果は前述したが、男性は判定2～3で60%を超え、女性は判定3～2で70%を超えていた。

図表 3-15 男女別、2次判定の頻度

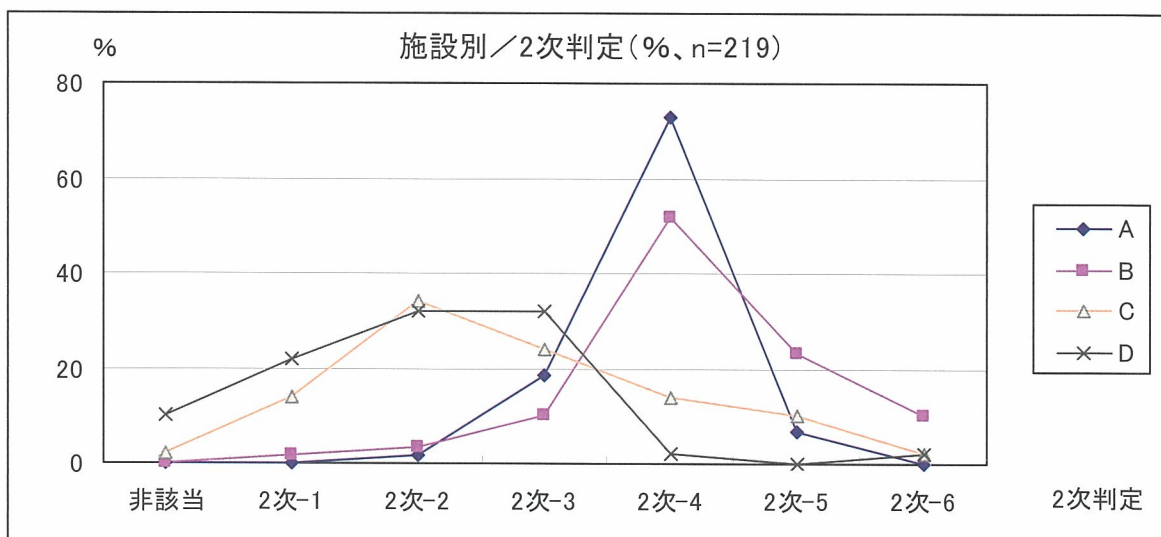
性別	非該当	2次-1	2次-2	2次-3	2次-4	2次-5	2次-6	人数
1 男	5	14	29	30	42	10	5	135
2 女	1	5	7	15	40	13	3	84



2次判定の施設別頻度は、A、B病院のピークが判定4で72.9%、51.7%、C病院のピークが判定2で34.0%、D病院のピークが判定2、判定3でそれぞれ32.0%を占めている(図表3-16)。なお、前述したが、1次判定の施設別頻度では、A病院のピークは判定3で78.0%、B、C、D病院のピークはいずれも判定2でそれぞれ26.7%、44.0%、48.0%を占めていた。

図表 3-16 施設別、2次判定の頻度

施設	非該当	2次-1	2次-2	2次-3	2次-4	2次-5	2次-6	人数
A			1	11	43	4		59
B		1	2	6	31	14	6	60
C	1	7	17	12	7	5	1	50
D	5	11	16	16	1		1	50



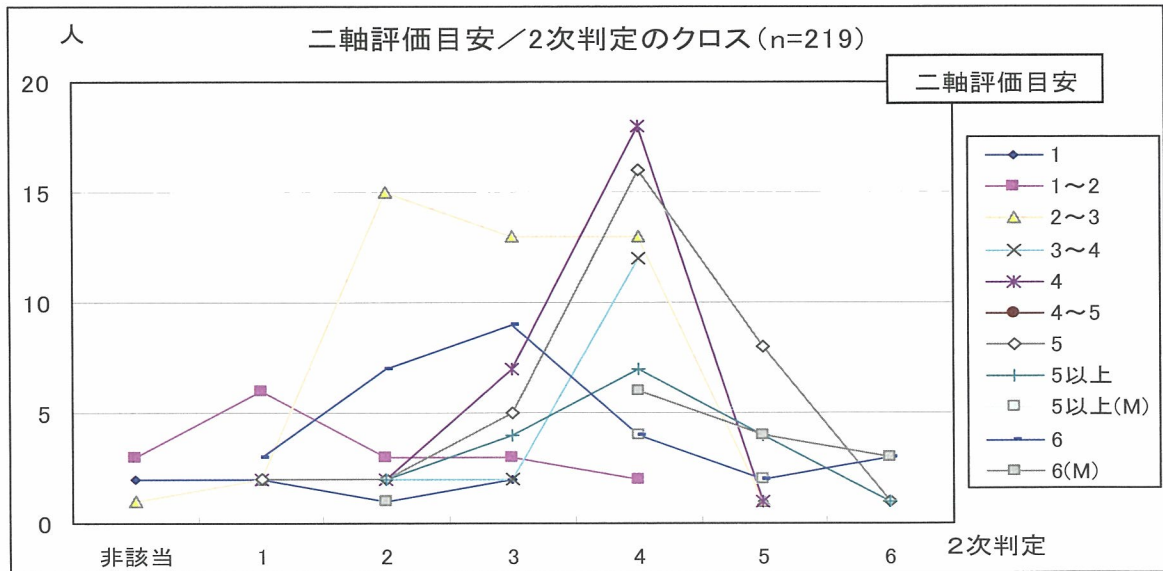
②二軸評価目安、生活障害評価と2次判定(障害程度区分)のクロス

二軸評価目安と2次判定(障害程度区分)との相関にはかなりのバラツキが見られ、また、生活障害評価と2次判定との相関にも、バラツキが見られる。

例えば、二軸評価目安最頻値の目安「2~3」は2次判定の非該当から5に分布し、次いで目安「5」は2次判定の1から6に分布し、バラツキが大きい(図表 3-17)

図表 3-17 2次判定／二軸評価目安のクロス

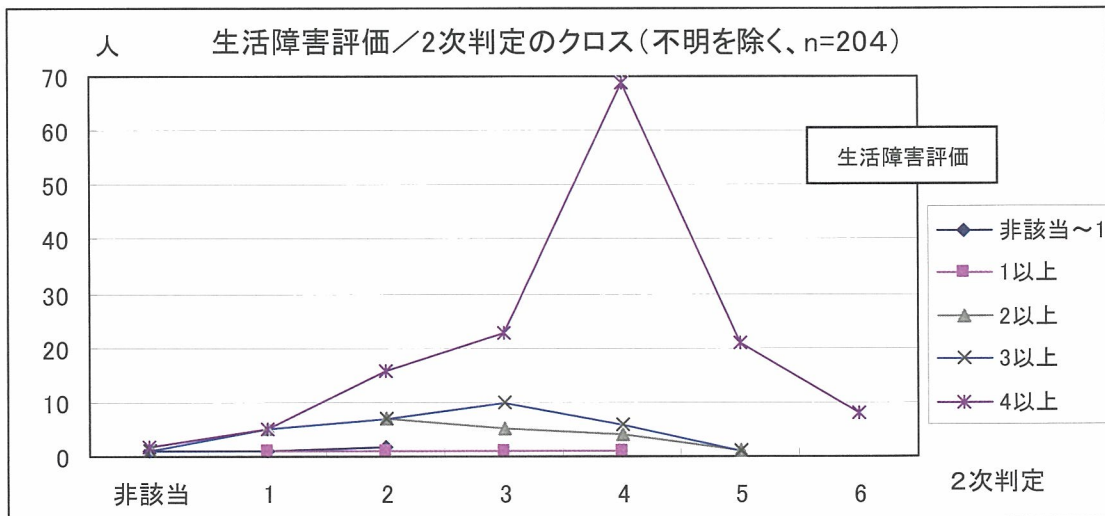
	二軸評価目安	1	1~2	2~3	3~4	4	4~5	5	5以上	5以上(M)	6	6(M)	総計
2次判定	非該当	2	3	1									6
	1	2	6	2	2	2		2			3		19
	2	1	3	15	2	2	1	2	2		7	1	36
	3	2	3	13	2	7		5	4		9		45
	4		2	13	12	18		16	7	4	4	6	82
	5	1		1		1		8	4	2	2	4	23
	6							1	1		3	3	8
	全体	8	17	45	18	30	1	34	18	6	28	14	219



生活障害評価においても、約 70%が「4 以上」であることにもよるが、それは2次判定の非該当から6まですべての区分に分布し、次いで「3 以上」は2次判定の非該当から5までに分布している(図表 3-18)。但し、生活障害評価のそれぞれの評価に対応する 2 次判定のピークは見てとることができる(生活障害評価「不明」15 件を除く)。

図表 3-18 生活障害評価／2次判定のクロス

		生活障害評価	非該当~1	1以上	2以上	3以上	4以上	不明	総計
2次判定	非該当		1			1	2	2	6
	1		1	1	5	5	5	2	19
	2		2	1	7	7	16	3	36
	3			1	5	10	23	6	45
	4			1	4	6	69	2	82
	5				1	1	21		23
	6						8		8
全体			4	4	22	30	144	15	219



### ③ 1次判定→2次判定の変更率

1次判定から2次判定が変更となった事例は全体の62.1%（219人中、136人）であった。そのうち、2次判定の方で区分が重くなったものが99.3%（136人中、135人）を占めていた（図表3-19）。なお、広島県全県の調査でも変更率は55.9%であった（図表1-2）。

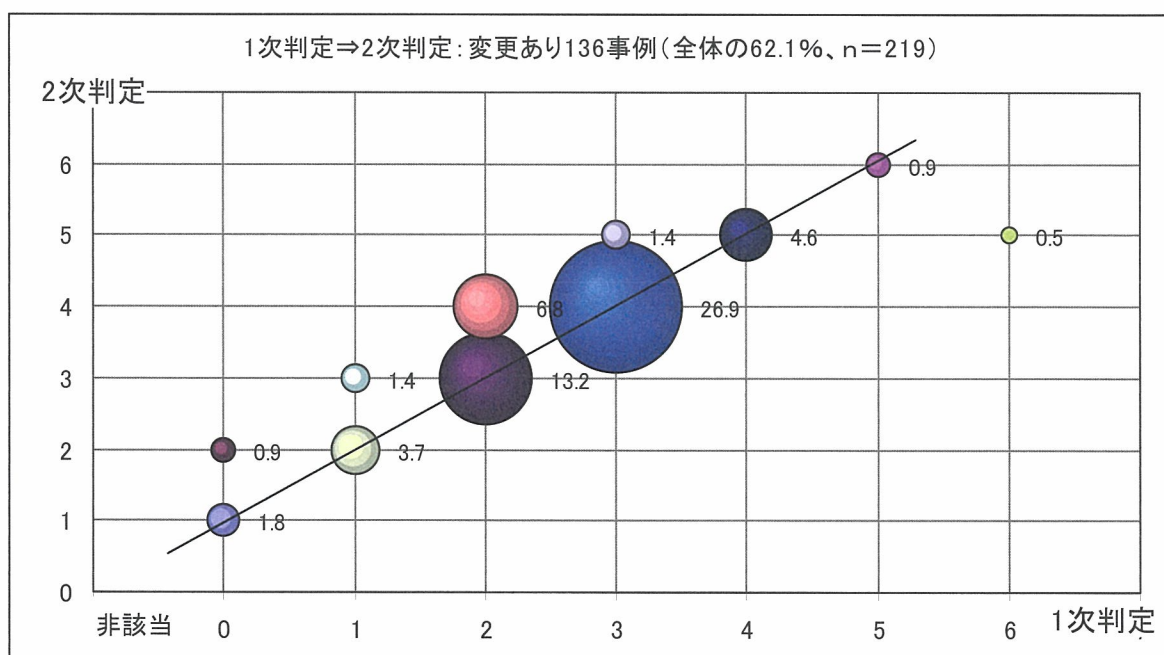
すなわち、1次判定ロジックは療養病床の入院患者の過半数以上にとって軽い評価となっている。

図表 3-19 1次判定→2次判定の変更有無（n=219、網掛け箇所：変更なし）

		2次判定	非該当	1	2	3	4	5	6	総計
1次判定	非該当		6	4	2					12
	1			15	8	3				26
	2				26	29	15			70
	3					13	59	3		75
	4						8	10		18
	5							9	2	11
	6								1	6
全体			6	19	36	45	82	23	8	219

変更あり、又はなし事例の全体に占める割合をバブルチャートで示した（図表3-20、3-21）。変更ありの事例をバブルチャートで見ると、1次判定から2次判定に移る際、基本的に1ランクアップしている。最頻値は1次判定3→2次判定4で全事例の26.9%を占めている（図表3-21）。

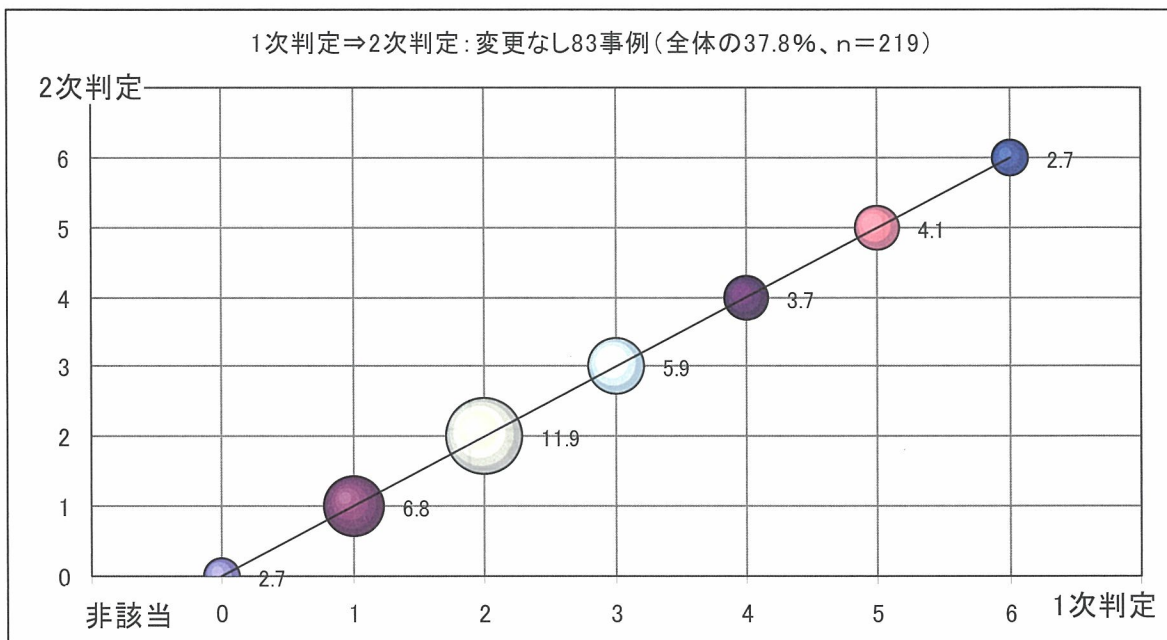
図表 3-20 変更ありの136事例（バブルの大きさは全体に占める比率を示す、n=219）



また、図表 3-20 によると、それぞれのバブルの周囲に 2 ランクアップするような事例、例えば、「1 次判定 2 → 2 次判定 4」の事例が 6.8%を占めるなど、2 ランクアップは全体 219 事例のうち 10.5%を占めていることに注目すべきである。

なお、変更なし事例の最頻値は「判定 2 → 判定 2」で 11.9%を占めている(図表 3-21)。

図表 3-21 変更なしの 83 事例(バブルの大きさは全体に占める比率を示す、n=219)



#### ④ 2次判定と日常生活自立度

「精神療養病棟医療実態調査(対象者状態調査)」(後述)において、介護保険で用いられる障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)、及び認知症高齢者の日常生活自立度を調査したが、それら指標と 2 次判定(障害程度区分)との施設ごとクロスを、図表 3-22、3-23 に示す。

施設 A、C、D において 2 次判定のいかんに関わらず、すべての患者が日常生活自立度(寝たきり度)の「自立及び J1」のランク以内の高い自立度を示しているが、施設 B の場合、患者の 73.3%が「A1」以上の重さのランクにある。

また、日常生活自立度(認知症自立度)に関していえば、2 次判定のいかんに関わらず、それぞれの施設で「自立及び I」のランクの割合は、A で 96.6%、B で 50.0%、C で 92.0%、D で 86.0%であり、傾向を異にする施設 B は別として、認知症自立度も高い。

なお、日常生活自立度に関し、B と他の 3 施設との差異は、65 歳以上高齢者比率が 71.7%と高いこと(図表 4-1)、当該病棟の平均在院日数が 3,700 日と長いこと(図表 2-2)に起因するものと考えられる。

すなわち、3 施設では日常生活自立度の両方の指標とも、2 次判定との相関は低いものと考えられる。

図表 3-22 2次判定と日常生活自立度(寝たきり度)のクロス(人)

施設	2次判定	自	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	合計
A	2	1									1
	3	9									11
	4	32	1		2						43
	5	1			1	1					4
B	1	1									1
	2	2									2
	3	4			1	1					6
	4	7	2		11	8		1	1		31
	5				2	6	2	1	3		14
	6					1		1	2	2	6
C	非該当	1									1
	1	7									7
	2	17									17
	3	12									12
	4	7									7
	5	5									5
6	1									1	
D	非該当	5									5
	1	11									11
	2	16									16
	3	15									16
	4	1									1
	6								1		1

図表 3-23 2次判定と日常生活自立度(認知症自立度)のクロス(人)

施設	2次判定	自	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	不明	合計
A	2	1									1
	3	10	1								11
	4	32	9	2							43
	5	3	1								4
B	1	1									1
	2	2									2
	3	4	1	1							6
	4	17		1	4	3		2	3	1	31
	5	2	2	1	2	4	1	2			14
	6	1				2		3			6
C	非該当	1									1
	1	7									7
	2	16			1						17
	3	10		2							12
	4	7									7
	5	4				1					5
6	1									1	
D	非該当	4		1							5
	1	10		1							11
	2	14		1				1			16
	3	14				2					16
	4	1									1
	6					1					1

### (3) 患者状態像の調査について

本研究では、対象患者に対して同意を得た上、障害程度区分認定調査項目（A群、B1群、B2群、C群）の106項目に新規追加85項目を加えた「精神療養病棟医療実態調査（対象者状態調査）」を行なった。

なお、新規追加調査項目は調査票前半の106項目と重複する部分があるが、精神障害入院患者の日常生活を別の尺度から評価するものとして、セットで調査をした。

#### ①年齢構成と日常生活自立度

4病院の65歳を基準とした年齢構成は図表4-1のとおりであり、障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)（調査票設問9-1）、及び認知症高齢者の日常生活自立度(調査票設問9-2)は図表4-2のとおりである。なお、65歳未満の患者151人のうち20人が40歳未満である。

寝たきり度に関する「自立及びJ」ランクは、65歳未満で93.3%、65歳以上で44.1%を占めている。認知症高齢者自立度に関する「自立及びI」ランクは、65歳未満で92.1%、65歳以上で54.5%を占めている。すなわち、自立度は65歳未満の層も65歳以上の層もどちらも自立度は高い。なお、2次判定と日常生活自立度の項でも触れたが、4施設全体で寝たきり度「A1」以上(48人)の重い患者のうち89.6%、認知症自立度「IIa」以上(43人)の重い患者のうち67.8%が、B施設に入院していることに留意する(図表3-22、3-23、4-2)。

図表4-1 施設別年齢構成

施設	65歳未満	%	65歳以上	%	総計
A	48	81.4	11	18.6	59
B	17	28.3	43	71.7	60
C	38	76.0	12	24.0	50
D	48	96.0	2	4.0	50
計	151	100	68	100	219

図表4-2 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)及び認知症高齢者の日常生活自立度

寝たきり度(65歳未満)			寝たきり度(65歳以上)			認知症自立度(65歳未満)			認知症自立度(65歳以上)		
ランク	人数	%	ランク	人数	%	ランク	人数	%	ランク	人数	%
自立	129	85.4	自立	26	38.2	自立	130	86.1	自立	32	47.1
J1	10	6.6	J1	3	4.4	I	9	6	I	5	7.4
J2	2	1.3	J2	1	1.5	IIa	4	2.6	IIa	6	8.8
A1	7	4.6	A1	10	14.7	IIb	1	0.7	IIb	6	8.8
A2	0	0	A2	17	25	IIIa	3	2	IIIa	10	14.7
B1	1	0.7	B1	1	1.5	IIIb	1	0.7	IIIb	0	0
B2	1	0.7	B2	2	2.9	IV	2	1.3	IV	6	8.8
C1	0	0	C1	7	10.3	M	0	0	M	3	4.4
C2	1	0.7	C2	1	1.5	不明	1	0.7	不明	0	0
計	151	100	計	68	100	計	151	100	計	68	100

## ②状態像調査の設問項目ごと集計

状態像調査集計結果を、設問項目ごと、65歳未満を左欄に、65歳以上を右欄に分けて百分率で示すこととする。図表先頭項番の（ ）内は、障害程度区分認定調査項目番号との対応を示す。なお、一部の設問で回答票に記述なし、不明等があるため項目ごとの合計が100%にならない場合もある（図表4-3、4-4）。

図表 4-3 状態像調査集計(設問1～設問12)

### 1) 麻痺、拘縮(A群、個別部位の集計は略)

		65歳未満		65歳以上	
		なし	あり	なし	あり
1-1-1	麻痺	96.0	4.0	92.6	7.4
1-2-1	拘縮	91.4	8.6	82.4	17.6

### 2) 移動・移乗等(A群)

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
2-1	寝返り	92.1	6.6	1.3	61.8	38.3	
2-2	起き上がり	90.1	8.6	1.3	45.6	54.4	
2-3	座位保持	94.0	5.3	0.7	73.5	25.0	1.5
2-4	両足立位	93.4	4.0	2.6	63.2	36.8	
2-5	歩行	94.0	3.3	2.6	58.8	41.2	
2-6	移乗	95.4	3.3	1.3	55.9	33.9	10.3
2-7	移動	94.7	3.3	2.0	55.9	30.9	13.2

### 3) 複雑動作(A群)

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
3-1	立ち上がり	90.1	7.9	2.0	41.2	47.1	11.8
3-2	片足立位	57.6	36.4	5.3	22.1	35.3	42.6
3-3	洗身	77.5	15.2	7.3	33.8	23.5	42.6

### 4) 特別な介護等(A群)

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
4-1-ア	じよくそう (なし・あり2択)	99.3	0.7		98.5	1.5	
4-1-イ	皮膚疾患 (なし・あり2択)	85.4	14.6		72.1	27.9	
4-2	嚥下	90.1	10.0		52.9	47.1	
4-3	食事摂取	80.8	18.5	0.7	47.1	52.9	
4-4	飲水	83.4	13.9	1.3	66.2	29.4	2.9
4-5	排尿	92.1	4.6	3.3	55.9	25.0	19.1
4-6	排便	92.7	3.3	4.0	55.9	23.5	19.1



5)身の回りの始末(A群)

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
5-1-ア	口腔清潔	88.1	7.9	4.0	51.5	48.5	
5-1-イ	洗顔	88.7	6.0	5.3	57.4	42.6	
5-1-ウ	整髪	86.8	7.3	6.0	54.4	45.5	
5-1-エ	爪きり	82.8	7.9	9.3	27.9	70.6	
5-2-ア	上着の着脱	90.1	5.9	4.0	57.4	28.0	14.7
5-2-イ	ズボン等の着脱	90.1	5.9	4.0	55.9	29.4	14.7
5-3	薬の内服	9.9	76.2	13.9	14.7	85.3	
5-4	金銭管理	9.9	72.2	17.9	8.8	91.2	
5-5	電話の利用	66.2	21.2	12.6	30.9	69.1	
5-6	日常の意思決定	47.0	49.0	3.3	26.5	63.2	10.3

6)意思疎通、記憶・理解(A群)

		普通・できる	ほぼ可能	何とか可能	殆ど不可能	判定不可能	普通・できる	ほぼ可能	何とか可能	殆ど不可能	判定不可能
6-1	視力	97.4	2.0		0.7		82.4	8.8	5.9	1.5	1.5
6-2	聴力	98.0					75.0	11.8	8.8	4.4	
6-3	意思の伝達	85.4	9.9	2.0	2.6		64.7	16.2	13.2	5.9	

6-4	指示への反応	できる	時々できる	殆どできない	できない	できる	時々できる	殆どできない	できない
		90.1	7.9	2.0		67.6	25.0	5.9	

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
6-5-ア	日課の理解	89.4	10.6		63.2	36.8	
6-5-イ	生年月日をいう	90.7	8.6		69.1	30.9	
6-5-ウ	年齢をいう	88.1	11.3		60.3	39.7	
6-5-エ	短期の記憶	87.4	12.6		48.5	51.5	
6-5-オ	自分の名前をいう	96.7	3.3		91.2	8.8	
6-5-カ	今の季節の理解	92.7	7.3		77.9	22.1	
6-5-キ	場所の理解	95.4	4.6		75.0	25.0	

7)行動について(A群)

		なし	時々ある	ある	なし	時々ある	ある
7-ア	被害的	64.9	29.1	5.3	63.2	29.4	7.4
7-イ	作り話	71.5	25.8	2.6	76.5	14.7	8.8
7-ウ	幻視幻聴	57.6	29.8	11.9	66.2	14.7	16.2
7-エ	感情不安定	61.6	31.1	6.6	52.9	29.4	14.7
7-オ	睡眠等の昼夜逆転	47.0	44.4	8.6	60.3	32.4	7.4
7-カ	暴言暴行	71.5	23.8	4.6	64.7	30.9	4.4
7-キ	同じ話しつこい話	65.6	27.2	7.3	67.6	22.1	10.3
7-ク	大声を出す	72.8	22.5	4.6	66.2	27.9	5.9
7-ケ	介護に抵抗	65.6	31.1	3.3	50.0	47.1	2.9
7-コ	常時徘徊	72.8	21.9	5.3	73.5	19.1	7.4

7-サ	落ち着きなし	90.7	7.9	0.7	89.7	8.8	1.5
7-シ	外出して戻れない	79.5	9.3	11.3	47.1	4.4	47.1
7-ス	一人で出たがる	89.4	6.6	4.0	73.5	7.4	19.1
7-セ	収集癖	94.0	3.3	2.6	82.4	7.4	10.3
7-ソ	火の不始末	87.4	4.0	7.3	61.8	2.9	32.4
7-タ	破損破壊	98.0	1.3	0.7	88.2	4.4	7.4
7-チ	不潔な行為	97.4	2.6		85.3	8.8	5.9
7-ツ	異食行動	98.0	0.7	0.7	89.7	5.9	1.5
7-テ	ひどい物忘れ	79.5	13.9	6.0	36.8	30.9	26.5

### 8) 過去 14 日間に受けた特別医療 (A 群)

		なし	あり	なし	あり
8-1	点滴の管理	99.3	0.7	98.5	1.5
8-2	中心静脈栄養	100		100	
8-3	透析	100		100	
8-4	ストマ処置	100		100	
8-5	酸素療法	100		98.5	1.5
8-6	レスピレーター人工呼吸器	100		100	
8-7	気管切開の処置	100		100	
8-8	疼痛の看護	92.7	7.3	92.6	7.4
8-9	経管栄養(胃ろう除く)	100		100	
8-10	胃ろう	100		100	
8-11	モニター測定	100		98.5	1.5
8-12	じょくそうの処置	100		98.5	1.5
8-13	カテーテル	99.3	0.7	100	

### 9) 日常生活自立度

図表 3-22、3-23、4-2 に前述。

### 10) 日中の動作(新規追加の設問)

		座っていることが多い			横になっていることが多い		
		よく動く	座っていることが多い	横になっていることが多い	よく動く	座っていることが多い	横になっていることが多い
10-1	日中動き回り	43.7	25.8	30.5	20.6	29.4	50
10-2	外出頻度	週1回	月1回以上	月1回未満	週1回	月1回以上	月1回未満
		23.2	9.3	66.9	2.9	1.5	94.1
10-3	不活発化原因となる状況変化	なし	あり		なし	あり	
		76.8	22.5		51.5	47.1	

### 11-1) 精神面等 (C 群)

		できる				できない			
		できる	時々できる	殆どできない	できない	できる	時々できる	殆どできない	できない
11-1(6-34)	独自の意思表示方法	80.1	14.6	2.0	3.3	64.7	25.0	7.4	2.9
11-2(6-44)	言葉以外の説明理解	88.1	9.3	0.7	2.0	77.9	11.8	5.9	4.4

## 11-1) 続

		なし	まれ・時々ある	よくある	なし	まれ・時々ある	よくある
11-3-11(7-フ)	過食、反すう	91.4	7.3	1.3	85.3	10.3	4.4
11-3-12(7-ハ)	憂鬱や悲観	59.6	40.4		64.7	32.4	2.9
11-3-14(7-マ)	対人の不安緊張	78.8	17.2	4.0	80.9	13.2	5.9
11-3-15(7-ミ)	意欲が乏しい	51.7	32.5	15.2	45.6	33.8	19.1
11-3-16(7-ム)	話がまとまらない	52.3	41.7	6.0	54.4	30.8	14.7
11-3-17(7-メ)	集中力が続かない	53.0	43.1	4.0	51.5	39.7	8.8
11-3-18(7-モ)	過大な自己評価	71.5	24.5	4.0	66.2	22.0	11.8
11-3-19(7-ヤ)	疑い深く拒否的	60.9	35.1	4.0	58.8	30.9	10.3

## 11-2) 行動障害(B2 群)

		なし	まれ・時々ある	よくある	なし	まれ・時々ある	よくある
11-3-1(7-ト)	強いこだわり	43.0	46.4	10.6	47.1	36.7	16.2
11-3-2(7-ナ)	多動	62.3	34.4	3.3	80.9	19.1	
11-3-3(7-ナ)	行動の停止	86.1	11.9	2.0	79.4	17.6	2.9
11-3-4(7-ニ)	パニック	49.7	48.3	2.0	66.2	32.4	1.5
11-3-5(7-ヌ)	自ら叩く等の行為	95.4	3.9	0.7	92.6	5.9	1.5
11-3-6(7-ネ)	他を叩く等の行為	88.7	10.6	0.7	86.8	11.8	1.5
11-3-7(7-ノ)	他人に突然抱きつく	94.7	5.3		95.6	4.4	
11-3-8(7-ノ)	興味等による行動	94.0	4.6	1.3	83.8	13.2	2.9
11-3-9(7-ハ)	環境変化のきょう声	80.8	17.2	2.0	66.2	29.4	4.4
11-3-10(7-ヒ)	突発的行動	92.1	7.9		97.1	3.0	
11-3-13(7-ホ)	再三の手洗い等反復行動	90.1	5.3	4.6	88.2	8.8	2.9

## 12-1) 応用的日常生活動作(IADL、B1 群)

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
12-1	調理	8.6	51.6	39.1	1.5	23.5	73.5
12-2	配膳	46.4	40.4	13.2	17.6	20.6	61.8
12-3	掃除	33.8	49.7	15.9	13.2	25.0	60.3
12-4	洗濯	51.0	29.8	18.5	17.6	11.7	69.1
12-5	入浴準備後片付け	51.0	37.7	10.6	14.7	29.4	54.4
12-6	買い物	45.7	39.0	14.6	11.8	33.8	51.5
12-7	交通利用	40.4	35.8	23.2	5.9	19.1	73.5

## 12-2) 文字の視覚的認識、精神面等(C 群)

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
12-8(9-8)	文字認識	72.2	19.2	7.9	41.2	22.0	35.3

図表 4-4 状態像調査集計(新規追加、設問 13～設問 17)

13) 家や地域の日常活動レベル

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
13-1	簡単調理	8.6	48.4	43.0	1.5	20.6	77.9
13-2	手の込んだ調理	4.0	46.3	49.7		14.7	85.3
13-3	洗濯と乾燥	51.7	27.8	20.5	13.2	17.7	69.1
13-4	食事後片付け食器洗い	33.8	45.0	21.2	7.4	22.1	70.6
13-5	掃除	36.4	47.7	15.9	10.3	26.4	63.2
13-6	テレビ等家電器具使用	55.0	32.4	12.6	20.6	29.5	50.0
13-7	ごみ捨て	47.7	43.7	8.6	25.0	29.4	45.6
13-8	寝具準備、片付け	51.0	38.4	10.6	17.6	28.0	54.4
13-9	日常の金銭管理	9.9	71.5	18.5	10.3	33.9	55.9
13-10	薬の管理	2.6	68.9	28.5	2.9	27.9	69.1
13-11	情報機器操作	41.1	33.8	24.5	11.8	16.2	72.1
13-12	整理整頓	41.1	49.7	9.3	17.6	36.7	45.6

14) 知的な機能や精神的な状態

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
14-1	選択や意思決定	43.0	51.0	6.0	36.8	42.7	20.6
14-2	安全の判断	58.3	37.1	4.6	32.4	51.4	16.2
14-3	損得の判断	58.3	34.5	6.6	39.7	39.7	20.6
14-4	役割や仕事の誤解	57.6	36.4	6.0	44.1	30.9	23.5
14-5	憂鬱や悲観	54.3	42.4	3.3	50.0	41.2	8.8
14-6	自殺のそぶり	90.7	8.6	0.7	92.6	5.9	1.5
14-7	日中寝たきりや閉じこもり	52.3	33.7	13.9	39.7	36.8	23.5
14-8	唐突な話や行動	47.7	47.0	5.3	42.6	47.1	10.3
14-9	自分勝手	46.4	45.7	7.9	42.6	42.7	14.7
14-10	感覚の過敏反応	75.5	23.9	0.7	82.4	14.7	2.9
14-11	新環境の情緒不安定	46.4	48.3	5.3	47.1	45.6	7.4
14-12	手順のこだわり	64.2	32.5	2.6	51.5	35.3	13.2
14-13	具体的指示の必要性	56.3	33.1	9.9	39.7	32.4	27.9
14-14	比喩の無理解	56.3	37.1	6.6	39.7	33.8	26.5
14-15	こだわりや気持ち切り替え困難	57.0	39.1	4.0	54.4	36.7	8.8
14-16	2つのことが同時にできない	45.0	43.1	11.9	23.5	32.4	44.1
14-17	人の言いなり	72.8	25.9	1.3	72.1	22.0	5.9
14-18	性的行動の問題	84.8	13.3	2.0	92.6	4.4	2.9
14-19	一人になるのは嫌がる	92.7	5.9	1.3	89.7	8.9	1.5
14-20	心配性	47.0	47.0	6.0	45.6	47.0	7.4
14-21	戸締り忘れ	79.5	16.6	4.0	50.0	27.9	22.1
14-22	周りに知らせず勝手に外出	88.1	10.6	1.3	82.4	13.3	2.9
14-23	知覚鈍磨(なし・あり、2択)	96.0	4.0		89.7	10.3	
14-24	気を引くためのトラブル	85.4	13.2	1.3	80.9	17.6	1.5
14-25	独り言や独り笑い	60.9	29.8	9.3	57.4	26.4	16.2
14-26	集団参加困難	47.7	37.8	14.6	36.8	42.7	20.6

15) 日常生活の管理や行動

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
15-1	貴重品管理	8.6	70.9	19.9	5.9	33.8	60.3
15-2	バランスのよい食事	25.2	44.3	30.5	10.3	22.0	67.6
15-3	ストレスの解消	39.7	45.0	15.2	11.8	36.7	50.0
15-4	趣味や余暇の楽しみ	45.7	38.5	15.9	13.2	38.3	48.5

		できる	できない	できる	できない
15-5	友人関係や維持	55.0	44.4	32.4	67.6
15-6	人に助けを求める	81.5	17.9	58.8	41.2
15-7	職を得る活動	8.6	90.7	5.9	94.1
15-8	職の持続	4.0	95.4	7.4	92.6
15-9	選挙の自由意思投票	44.4	55.0	19.1	80.9
15-12	今の時間の理解	90.7	9.3	7.4	92.6
15-13	11以上の数の計算	92.1	7.9	66.2	33.8
15-14	読み書き	89.4	10.6	25.0	73.5

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	作業は行っていない	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	作業は行っていない
15-10-1	作業課題に合わせた役割の理解力	11.3	44.3	1.3	43.0	1.5	29.4	2.9	66.2
15-10-2	作業課題手順にそった準備、行動力	11.9	43.0	1.3	43.0	1.5	29.4	4.4	64.7
15-11-1	日常課題に合わせた役割の理解力	15.9	66.9	16.6		5.9	50.0	44.1	
15-11-2	日常課題手順にそった準備、行動力	17.2	66.9	15.2		4.4	50.0	45.6	

16) 日中の過ごし方

16-1	入所、在宅	99.3		97.1	
16-2	補装具着用 (あり・なし2択)	あり 3.3	なし 96.7	あり 7.4	なし 92.6
		できる	できない	できる	できない
16-3	単独の外出	37.1	62.9	37.1	62.9
16-4	季節や状況にあわせた服装	82.1	17.9	82.1	17.9
16-5	郵便宅配便の処理	58.9	41.1	58.9	41.1

16-6	毎日の移動範囲	居宅内	半径500m未満	500m～1k未満	1k以上	居宅内	半径500m未満	500m～1k未満	1k以上
		48.3	15.2	27.8	7.9	80.9	13.2	5.9	
16-7	外出の理由	毎日の買物	金融機関	福祉施設	役所	医療機関	勤務先	余暇	外出なし
	65歳未満	29.1		0.7	1.3	2.0		1.3	64.2
	65歳以上	4.4			1.5	2.9		4.4	86.8
16-8-1	訪問者・頻度	毎日	週1回	月1回	殆どない、又はなし	毎日	週1回	月1回	殆どない、又はなし
	家族		2.6	12.6	82.1		5.9	10.3	79.4
16-8-2	友人		2.0	3.3	91.4			1.5	89.7
16-8-3	近隣住民				96.7				91.2
16-8-4	福祉施設職員				96.7				91.2
16-8-5	福祉サービス職員	0.7		1.3	94.7				91.2
16-8-6	医療関係職員	76.8			19.9	70.6			22.1

16-9	日中の過ごし方 * 65歳未満(上) * 65歳以上(下)	テレビ	自分の趣味	読書	外出	通所通院	何もしない
		20.5 27.9	17.2 13.2	2.6	4.0 1.5	4.0	50.3 55.9
16-10	1年前との状態比較	良い 3.3	悪い 4.0	変わらない 91.4	良い 8.8	悪い 19.1	変わらない 72.1

### 17) その他、医療・睡眠など

		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助
17-1	指示された日時の通院	8.6	55.6	33.8	4.4	19.1	75.0
17-2	たんの吸引 (なし・あり2択)	なし 0	あり 99.3		なし 0	あり 100	
17-3	インスリンの注射 (なし・あり2択)	なし 2.6	あり 97.4		なし 1.5	あり 98.5	
17-5	片手の胸までの持ち上げ	97.4	2.0	0.7	94.1	4.4	1.5
17-4	てんかんの発作	なし 96.7	まれ・時々ある 3.3	よくある	なし 97.1	まれ・時々ある 1.5	よくある 1.5
17-6	寝つき	良い 17.9	ふつう 57.0	悪い 25.2	良い 33.8	ふつう 47.1	悪い 19.1

17-7	夜中の目覚め	目覚めない 27.8	1～2回 57.0	3～4回 12.6	5回以上 2.6	目覚めない 29.4	1～2回 42.6	3～4回 22.1	5回以上 5.9
17-8	昼寝	昼寝なし 15.2	30分以内 25.2	30～60分 48.3	60分以上 11.3	昼寝なし 19.1	30分以内 29.4	30～60分 35.3	60分以上 16.2
		できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	無し (男も含む)	できる	支え等によりできる／見守り・一部介助	できない／全介助	無し (男も含む)
17-9	生理処理	11.3	2.6	0.7	85.4	1.5			98.5
17-10	髭剃り	72.8	15.9	7.3		23.5	20.6	51.5	
17-11	洗髪	78.1	13.9	7.9		41.2	11.8	47.1	

### ③状態像調査から見た精神障害入院患者の状態像

図表 4-3、4-4 で見るように、65 歳未満、65 歳以上の全体で 1) 麻痺・拘縮については約 90%前後全く見られない。2) 移動・移乗等、3) 複雑動作、4) 特別介護、17-5) 片手の胸までの持ち上げについては、全体として平均的に見られる以上の介助の必要性や障害による動作困難は見受けられない。6) 意思疎通、記憶・理解についても、「普通・できる」は 65 歳未満で 87%～98%、65 歳以上で 48%～82%、「できない・全介助、殆どできない」はいずれも 6%未満である。8) 過去 14 日間に受けた特別医療はほぼ 100%「なし」である。

しかし、薬の内服、金銭管理、調理、指示された日時の通院が「できる」のは 65 歳未満、65 歳以上の層いずれも 10%未満、「支え等によりできる/見守り・一部介助」「できない・全介助、殆どできない」を併せると、いずれも 90%を超えている。(図表 4-3 の 5)、12-1)、図表 4-4 の 13)、17))。

これらは身体障害者等の状態像と有意な差を示している。

④状態像設問群と二軸評価目安、生活障害評価及び2次判定（障害程度区分）とのクロス  
二軸評価目安、生活障害評価、2次判定（障害程度区分）の3つの要素と設問群との相  
関を見るため、状態像調査票のいくつかの設問群に仮スコアをおき集計を行なった。

なお、スコア計算方法として下記設問例(図表 4-5)の場合の回答番号を、1ないし4の仮  
スコアとし設問群(図表 4-6)の合計値を集計した。

図表 4-5 設問の仮スコア

設問	回答	仮スコア
○ パニックや不安定の行動が	1. ない 2. まれにある 3. ときどきある 4. よくある	1 2 3 4
○ 調理(献立)について・・・	1. できる 2. 見守り 3. 一部介助 4. 全介助	1 2 3 4
○ 職をうるための活動をする事が	1. できる 2. できない	1 2

状態像調査票より選択した設問群は図表 4-6 のとおりである。但し、集計の際グルー  
ピングした要素別合計件数が1件はアウトライヤーとみなして集計から除き、患者 ID ごと設  
問群ごとの合計スコアをグルーピングした場合の値とした。

さらに、介護保険サービス受給対象年齢 65 歳を基準に、65 歳未満の層(集計の左欄)、65  
歳以上の層(集計の右欄)に分けて結果を見ることにした。

図表 4-6 設問項目番号と設問群

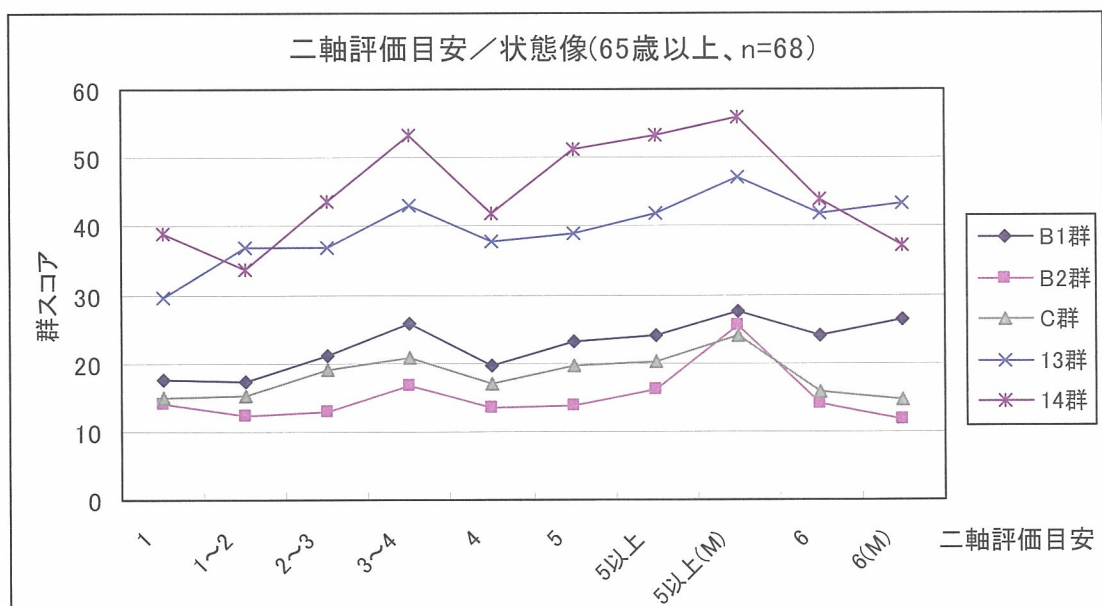
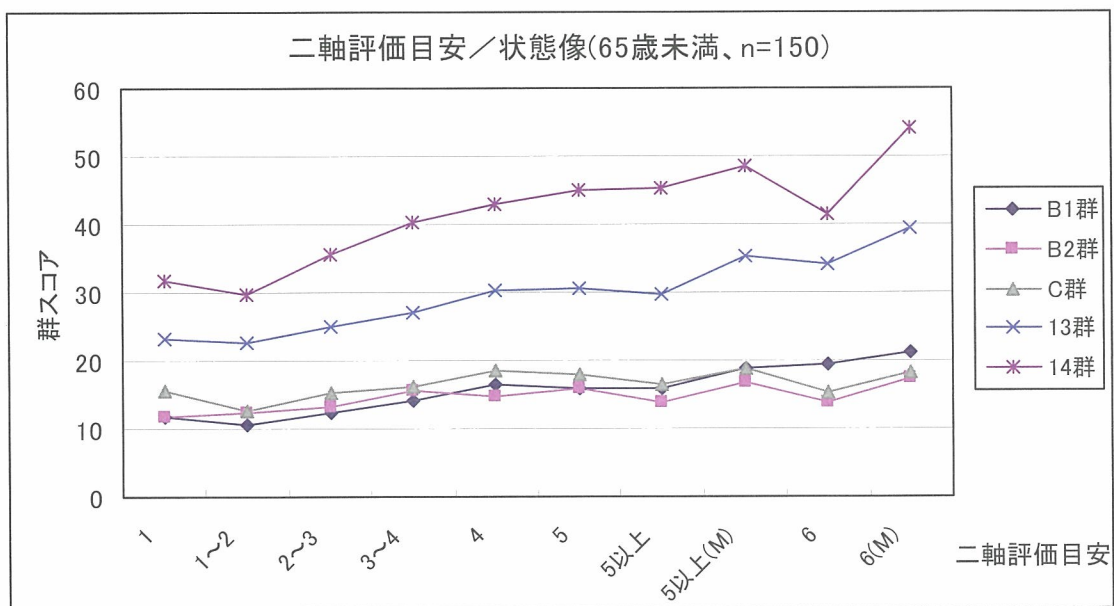
設問群	本調査 項目数	調査票設問項目番号	内容	スコア合計の 最小～最大
B1群	7	12-1～12-7	調理や買い物ができるかどうかの日常生活 に関する項目 (IADL)	7～28
B2群	11	11-3-1～11-3-10 11-3-13	多動やこだわりなど行動面に関する項目	11～45
C群	11	11-1～11-2 11-3-11～11-3-12 11-3-14～11-3-19 12-8	2次判定段階で検討対象となるA・B以外の 項目群： ①本人独自の野表現方法による意思表示、 言語以外の手段による説明理解 ②過食、 反すうなど食事に関する行動、話がまとま らない・働きかけに応じないなどの精神面 に関する項目 ③文字の視覚的認識使用に 関する項目	11～44
13群	12	13-1～13-12	家や地域における日常の活動レベルの項目 (IADL、B1群と一部重複)	12～48
14群	26	14-1～14-26	知的な機能や精神的な状態についての項目 (行動障害等、一部B2群と重複)	26～102

図表 4-7 二軸評価目安／状態像(設問群)のクロス

65 歳未満

65 歳以上

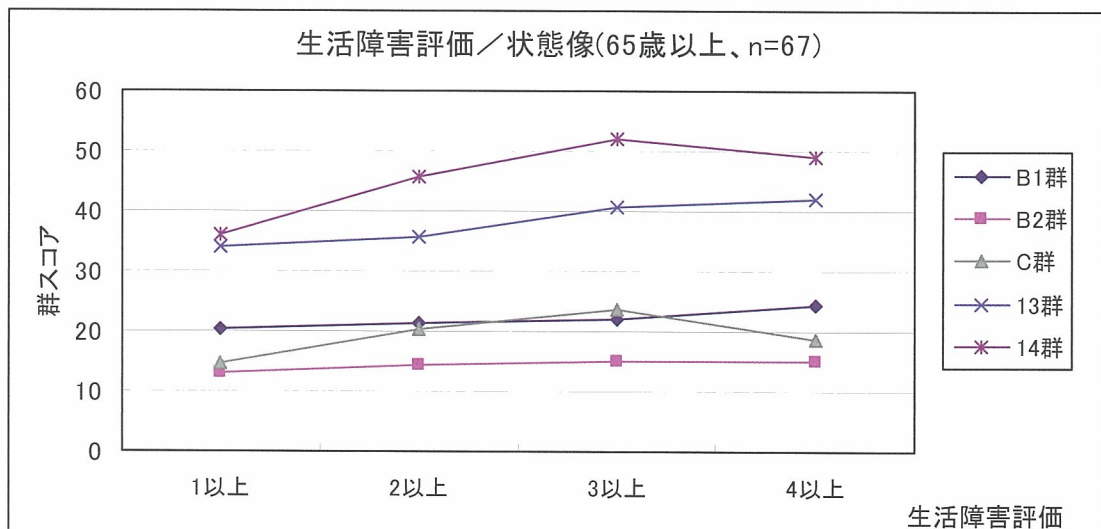
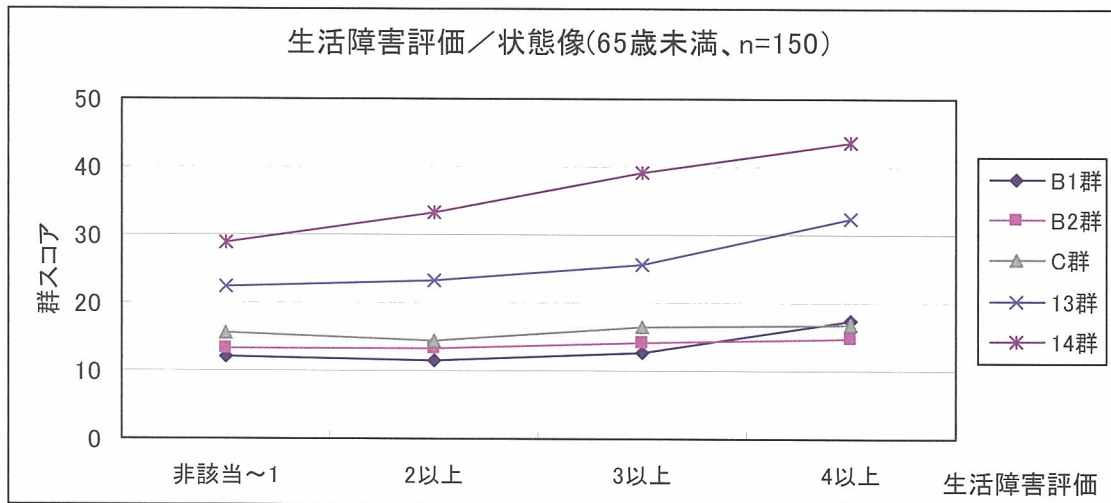
二軸評価目安	人数	B1群	B2群	C群	13群	14群	人数	B1群	B2群	C群	13群	14群
1	6	11.7	11.7	15.7	23.2	31.7	2	17.5	14.0	15.0	29.5	39.0
1~2	14	10.5	12.5	12.6	22.6	29.6	3	17.3	12.3	15.3	37.0	33.7
2~3	36	12.5	13.2	15.4	25.1	35.5	9	21.1	13.0	18.9	37.0	43.7
3~4	9	14.2	15.6	16.3	27.1	40.4	9	25.9	16.8	20.8	43.0	53.4
4	21	16.6	14.7	18.6	30.4	42.8	9	19.6	13.6	17.1	37.8	42.0
5	21	15.9	15.8	18.0	30.5	45	13	23	13.7	19.5	38.9	51.1
5以上	9	16.0	13.8	16.4	29.8	45.4	9	23.9	16.0	20.3	42.0	53.2
5以上(M)	4	18.8	16.8	18.8	35.3	48.5	2	27.5	25.5	24.0	47.0	56.0
6	19	19.4	13.8	15.3	34.1	41.5	9	23.9	14.0	15.9	42.0	43.8
6(M)	11	21.3	17.3	18.1	39.5	54.2	3	26.3	11.7	14.7	43.3	37.3





図表 4-8 生活障害評価／状態像(設問群)のクロス(グラフは不明を除き表示)

生活障害評価	65 歳未満						65 歳以上					
	人数	B1群	B2群	C群	13群	14群	人数	B1群	B2群	C群	13群	14群
非該当～1	3	12	13.3	15.7	22.3	28.7	3	20.3	13.0	14.7	34.0	36.0
2以上	16	11.6	13.1	14.4	23.1	33.3	6	21.2	14.3	20.3	35.8	45.7
3以上	27	12.6	14.1	16.6	25.6	39.2	3	22.0	15.0	23.7	40.7	52.0
4以上	93	17.4	14.7	16.8	32.4	43.4	51	24.2	14.9	18.8	42.1	48.9
不明	11	10.5	13.1	14.8	21.5	33.6	4	12.3	12.5	13.0	24.8	33.3



図表 4-7で見ると、二軸評価目安に関して、65歳未満、65歳以上の層ともにB1群(IADL)、13群(家や地域の日常生活レベル)、14群(知的な機能や精神的な状態)は重症度区分に比例した相関が見られるが、B2群(行動面)、C群(A群、B群以外の11の項目群)の影響、相関は比較的小さいと思われる。

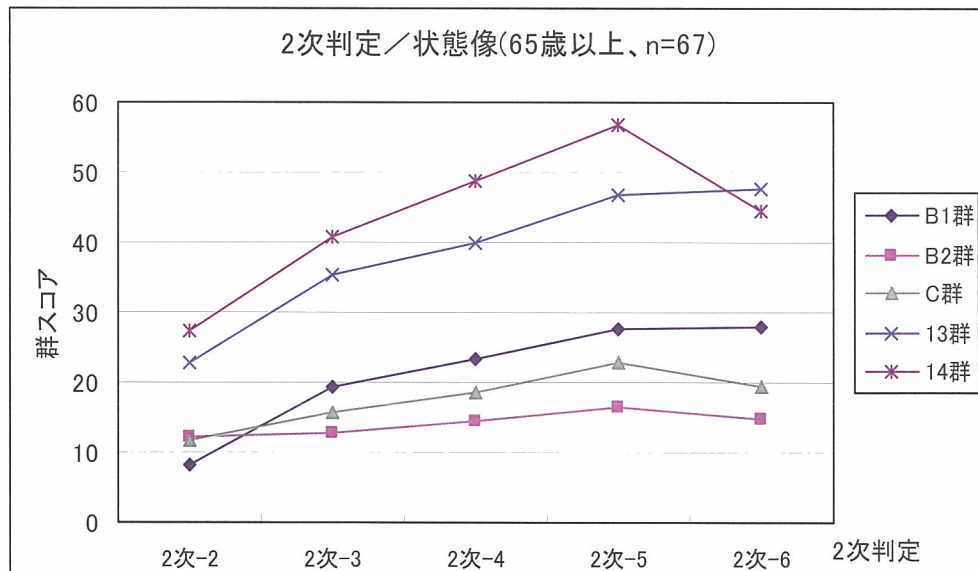
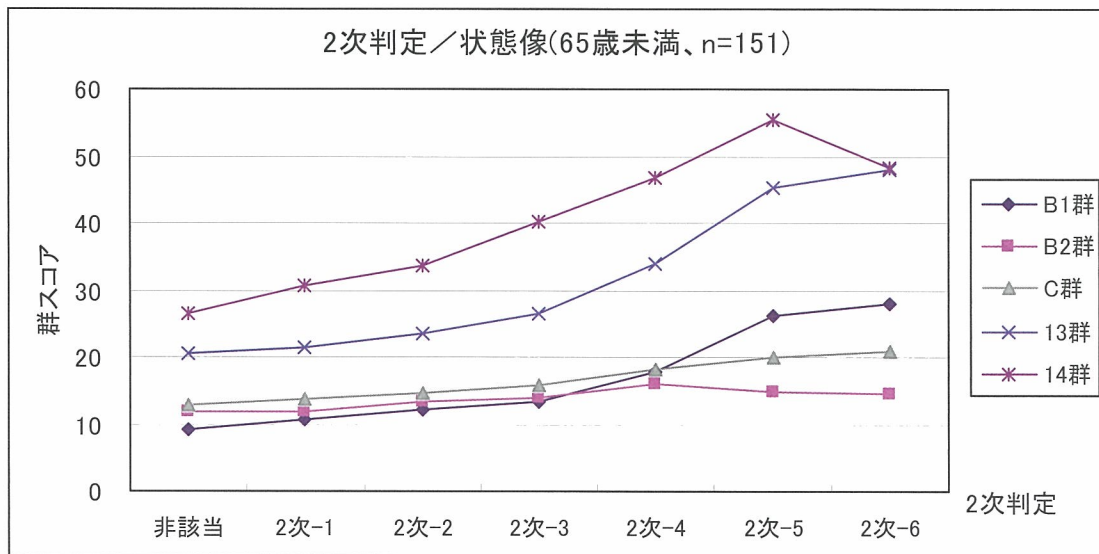
生活障害評価に関しても、基本的に同様の傾向が見られる(図表 4-8)。

図表 4-9 2次判定(障害程度区分)／状態像(設問群)のクロス

65 歳未満

65 歳以上

2次判定	人数	B1群	B2群	C群	13群	14群	人数	B1群	B2群	C群	13群	14群
非該当	5	9.2	12.0	12.8	20.6	26.6						
2次-1	19	10.8	12.0	13.8	21.6	30.6						
2次-2	31	12.3	13.5	14.6	23.7	33.8	5	8.4	12.2	11.8	23.0	27.4
2次-3	34	13.4	13.9	15.9	26.6	40.2	11	19.5	13.0	15.6	35.4	41.0
2次-4	51	18.0	16.0	18.2	34.1	46.8	31	23.4	14.6	18.6	40.0	48.8
2次-5	9	26.4	15.0	20.1	45.3	55.4	14	27.7	16.6	22.9	46.8	56.8
2次-6	2	28.0	14.5	21.0	48.0	48.5	6	28	14.8	19.5	47.8	44.7



2次判定(障害程度区分)に関して見ると、65歳未満、65歳以上の層ともにB1群、13群、14群は重症度区分に比例した相関が見られるが、B2群、C群の影響、相関は比較的小さいと思われる(図表4-9)。

#### (4) タイムスタディの概要

本研究では、対象患者に対して同意を得た上、介護保険「ケアコード表」に基づいて、24時間、1分単位でケア内容を記入する「精神療養病棟介護時間票調査」(タイムスタディ)を行なった。集計方法は次のとおりである。

- ・ ケア担当職員ごとに作成された時間票データを対象者 ID ごとデータに組み替えた後、対象者 ID ごとに時間集計を行った。
- ・ 同時刻(同一の時分)に 1 人の患者に複数のケア(複数の介護者によるケア)が行われる場合には、カウント件数の単純合計による「延べ時間(重みづけ集計)」を行なった。
- ・ 対象患者が複数ある場合の対象者 ID「888」の扱いは、調査票に記載が無いときは全員を、行事等参加者 ID 一覧表が添付されている場合は該当する ID をもって、複数対象者とみなした。なお、調査対象外の対象者 ID「999」はすべて集計から除外した。

#### ①タイムスタディ実施日、ケア担当職員(介護者)数及び対象患者数

図表 5-1 タイムスタディ実施日

施設	調査実施日	対象患者数	ケア職員数
A	平成19年3月15～16日	59	36
B	平成19年3月7～8日	60	24
C	平成19年3月12～13日	50	18
D	平成19年3月5～6日	50	33

#### ②ケアコード別・ケアの量(ケア延べ時間)の比較

4施設における3桁ケアコード別・ケアの量の上位10位までは図表5-2のとおりである。うち、網掛け箇所は施設ごとケアの量の上位3位を示す。ここで、「ケアの量」とは重み付けしたケア延べ時間を指す。

図表 5-2 3桁ケアコード別・ケアの量(ケアコードの上位10位、網掛けは上位3位までを示す)

A			B			C			D		
ケアコード	計	%	ケアコード	計	%	ケアコード	計	%	ケアコード	計	%
011	24,861	36.3	011	797	5.1	011	18,869	9.9	011	28,800	38.9
012	23,971	35.0	012	782	5.0	012	26,480	13.9	012	5,503	7.4
013	421	0.6	213	529	3.4	013	25,807	13.5	015	12,823	17.3
015	9,562	14.0	614	740	4.8	015	29,370	15.4	341	3,006	4.1
341	292	0.4	899	375	2.4	341	10,444	5.5	344	2,712	3.7
811	663	1.0	913	816	5.3	345	4,131	2.2	811	1,675	2.3
843	350	0.5	921	718	4.6	613	4,565	2.4	843	1,914	2.6
863	350	0.5	923	3,209	20.7	614	13,864	7.3	861	980	1.3
923	3,840	5.6	924	1,371	8.8	811	9,842	5.2	863	3,624	4.9
924	893	1.3	941	992	6.4	853	3,930	2.1	924	1,940	2.6
Top10計	65,203	95.2	Top10計	10,329	66.5	Top10計	147,302	77.4	Top10計	62,977	85.1
合計	68,482	100.0	合計	15,495	100.0	合計	190,699	100.0	合計	74,552	100.0

ケアコード3桁のケアの量、トップ3(図表5-2の網掛け箇所)は施設ごとに異なっている。ケアの内容も施設間の差異が著しい。例えば、直接関わらない業務の比率は施設Bの13.1%から施設Aの86.3%まで有意な差が見られる(図表5-3)。

大分類コード0(対象者に直接関わらない業務)を除いた「対象者と直接関わるケア」としては、いずれの施設でも「医療」に分類されるケアが多く見られ、11.2~43.8%のケア時間をそれに充てている。また、施設A及びBでは「機能訓練」に50%を超えるケア時間を割き、施設C及びDでは「食事」に25%を超えるケア時間を費やしている(図表5-4)。

他方、精神障害者への関わりは、一般の要介護者と異なり生活面での支援に要する時間が極めて少ない。すなわち、ケアの種類・内容、ケアの量が異なる。

図表 5-3 ケアコード大分類別、相対的なケアの量の比較  
(施設ごとにケアの量総計を100とする)

ケアコード大分類	A施設	B施設	C施設	D施設
0 直接関わらない業務	86.3	13.0	55.0	65.8
1 入浴等	0.5	2.8	5.0	0.2
2 移動・移乗等	0.1	6.0	1.0	1.0
3 食事	0.9	2.7	12.0	9.9
4 排泄	0.0	3.5	0.0	0.1
5 生活自立支援	1	2.3	2.0	2.4
6 社会生活支援	0.0	5.2	12.0	0.2
7 行動上の問題	0.6	0.0	0.0	0.0
8 医療	3.1	9.7	12.0	15.0
9 機能訓練	7.5	54.8	1.0	5.3
総計	100	100	100	100

